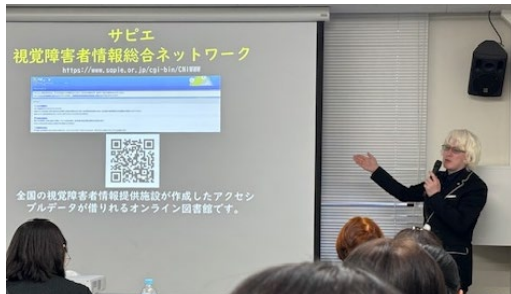


課題

- 視覚障害等の読み書き困難のある障害当事者の実情への理解
 - 障害当事者の多様なニーズに応じた支援方法やアクセシブルな資料に関する最新情報
- 支援に関する知識や実践的支援方法の習得と、こうした現状の周知

事業のねらい

障害当事者・有識者による読み書き困難やその読書方法等の実情、最新の支援ツール・アプリ・機能・サービスなどを紹介する講義と、iPadを活用した演習により、読書の支援に役立つ実用的な知識や、操作を体験する機会を受講者に提供する。また、研修当日・開催後のアンケートによる効果測定と、オンデマンド配信による知識習得機会の拡大を目指す。



▲講師によるサピエ図書館の解説

実施内容

- 10:00～10:30 読書バリアフリー概論「読書バリアフリー法について」
／成松一郎さん(有限会社読書工房)
- 10:30～12:00 講義1「ICTを活用した読書支援」
／相羽大輔さん(愛知教育大学)
講義2「多様な社会的障壁とそれに適したサポートツールについて」
／平林ルミさん(学びプラネット合同会社)
- 13:00～15:00 演習「ICTを活用した読書支援について」
15:10～16:00 質疑応答・まとめ

①講義「読書バリアフリー法概要」 《120分間》 「ICTを活用した読書支援について(1・2)」



成松一郎氏(読書工房)、平林ルミ氏(学びプラネット合同会社)、相羽大輔氏(愛知教育大学)による講義

②演習「ICTを活用した読書支援について」《120分間》



1人1台のiPadを支給し、読み上げ機能や「UDブラウザ」など、読書支援への役立て方を、実際に受講生が試して体験

③質疑応答・まとめ 《50分間》



受講生からの具体的な質問や疑問、相談へ、講師が講義の補足を交えつつ回答。研修のまとめを行い、研修終了

成果

○多様な読書困難者への理解促進



視覚障害やディスレクシア等による読み書き困難の実態について、当事者の事例を通して理解を促進

○ICTを活用した支援ツール・アプリ・機能などによる支援事例の紹介と体験機会の提供



音声を録音できるタッチペンなど受講生が自由に手に取って試せる展示も実施

○研修後における知識習得機会の確保と研修成果実践に向けた取り組み



研修動画のYouTube配信(フル字幕)、「ペア申込み」制度導入

○前年度とのアンケート評価指数の比較

理解が深まったか	R6年度 (30名)	R7年度 (25名)
読書バリアフリーに向けた支援方法が深まった(とてもそう思う/そう思う)	83% ／17%	76% ／24%
多様な資料や読書支援機器の活用	93%	96%
サピエ図書館の利用	32%	32%
国立国会図書館によるデータ提供サービスの利用	33%	36%